

薬学



社会環境の変化に応じて、薬剤師に求められる役割も大きく変わってきています。時代が必要とする薬剤師を養成する大学のカリキュラムも、日々進化しています。今、6年制薬学部のあるような教育を受け、社会に貢献する薬剤師として巣立っていかうとしているのか。日本薬剤師会 常務理事の吉田力久さんにうかがいました。



公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事

吉田 力久さん

よしだ ちかひさ ● 1961年生まれ。福岡大学薬学部卒業。92年、有限会社吉田調剤薬局代表取締役役に就任。2014年、山口県薬剤師会副会長、日本薬剤師会理事を経て16年、常務理事に就任。厚生労働省、文部科学省における各議会の構成員。特定非営利活動法人薬学共用試験センター理事、一般社団法人薬学教育評価機構総合評価評議会評価委員会委員。

Pharmacy

大切なのは医療の担い手としての使命感

かかりつけ薬剤師は 地域医療の担い手

少子高齢・人口減少など、社会環境が大きく変化する中で、薬剤師・薬局が果たす役割の重要性はますます高まっています。

2025年に向けて政府は、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。その中で「かかりつけ薬剤師・薬局」は、薬の専門家として活躍

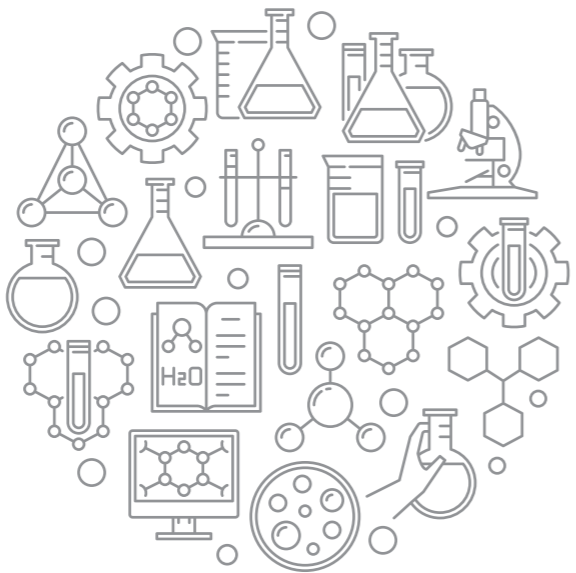
が期待されています。

また、医薬分業においては、院外薬局の処方箋受取率が17年度で72・8%、処方箋受け取り枚数は8億枚を超えました。薬剤師が処方医に対して行う疑義照会の割合は、一般的には3〜4%のところ、かかりつけ薬剤師では9%台と、約3倍もの違いがあるという結果が出ています。いかにかかりつけ薬剤師・薬局が患者さんにとって安全性、有効性の高い薬物治療に貢献しているかが分かります。

では、具体的にかかりつけ薬剤師

変化する社会が求める人材を養成

新時代を拓く薬学教育



6年間で高度な知識と 対人関係能力を錬成

こうした優れた薬剤師を養成する教育のあり方も、大きな変革を遂げています。大学では06年から4年制だった薬学教育を6年制に改編、15年4月からは新しいコア・カリキュラムに基づいた教育が取り入れられました。学生たちは1〜4年次の事

前学習で、薬剤師としてふさわしい資質と能力、すなわちヒューマンスキルとテクニカルスキルを身につけていきます。5年次になると薬局、病院でそれぞれ11週間、合計で22週間をかけて学習成果基盤型教育に基づいた実務実習を受けます。6年次に受験する薬剤師の国家試験では、この実務実習で学ぶこと、つまり臨床についての出題が全体の約3割を占めます。実務実習で得た知識や経験が、実際に薬剤師になったときにも応用できるので、この実習は非常に重要な意味を持つこととなります。

来年2月には新しいコア・カリキュラムで学んだ学生たちが、いよいよ実務実習で臨床現場に立ちます。彼らは非常に多岐かつ仔細な知識を研鑽しています。私の学生時代、薬の副作用を学ぶ際には、まず過去に発生した事象を学び、その後は現場で、様々なケースで薬が実際に使用

される中で経験を積み、判断の幅が広がっていくという方法をとっていました。しかし今は、多岐にわたる薬理作用を有する薬剤のそれぞれを把握し、どのような組み合わせで副作用が発生しやすいのかということをしつかり考えられる教育を受けています。そんな彼らが薬剤師となり、さらなる経験を積むことで患者さん、地域、そして社会全体に素晴らしい貢献をしていくことでしょう。

日本薬剤師会では、18年1月に「薬剤師行動規範」を制定しました。私は第2条に掲げた「最善努力義務」が個人的にとっても好きです。「薬剤師は、常に自らを律し、良心と他者及び社会への愛情をもって保健・医療の向上及び福祉の増進に努め、人々の利益のため職能の最善を尽くす」。薬学部への進学を考えている方は、ぜひこのような薬剤師を目指していたいだきたいと思えます。

広告特集

企画・制作
朝日新聞社メディアビジネス局

